

31：6「主よ、御手にわたしの霊をゆだねます」はルカ 23：46 において十字架上の主イエスの言葉として採用されて以来、キリスト者の記憶に刻まれています。主イエスが愛唱された詩編ではないでしょうか！？これは、嘆きと感謝の祈りです。私たちは、苦境の中でどなたに、何に自らをゆだねるでしょうか？ 詩編 31 編を読みましょう。イエス様の苦難の様を思わずにはおれないことでしょう。

1. 主よ、御もとに身を寄せます (bəkā Yahweh hāsītī) 「あなたに、主よ、私は信頼します」。新生讚美歌 603「主よみもとに」(Nearer, my God, to Thee) は父と兄から逃亡し、ベテルで石を枕にして寝ている時、天から降る階段の夢をみたヤコブの想いを歌います。6 節では「まことの神、主よ、御手にわたしの霊をゆだねます。わたしを贖ってください」と言い換えられ、深められています。(bəyādəkā ‘apqīd rūhī – pādītāh ‘ōwtī Yahweh ‘ēl ‘ēmet あなたのみ手 (単数) に、私は委ねます、私の霊 (ルアッハ) をという語順です。「あなたは、私を、主、アーメンたる神よ、贖ってくださいます (買い取って自由に)」という語順です。ルカ 23:46 では「主、アーメンたる神よ」が「父よ」に替わっています。何かの前に身を投げ出すということで、「委ねる」という意味になります。
2. 私の足を/広い所に立たせてくださいました (9 節) ヘブライ語の「救い」(ヤーシャー) は「広がりを与える」という意味であり、同じく「bammerhāb」の「rāhab」=「広いこと、広くなること」も救いであり、逆に「狭くなること」が「苦難」を意味することは詩編 4:2「苦難から解き放ってください」=「狭くなっている私に広がりを与えてください」という箇所です。主は詩人の足を窮地ではなく、自由の支配する広がりのある処に立たせてくださったと言うのです。
3. 苦難の経験 10 節-14 節の苦難の描写は心に迫るものがあります。「罪のゆえに」だけは主イエスの苦難の経験にそぐわない感じがします。「わたしの罪」(ba’āwōni) は、ここで、不正・不法というような意味ですが、神は「罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断された」(ローマ 8:3)、「罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました」(II コリント 5:21) の言葉と、主イエスが十字架の道を歩まれた孤独と絶望の深みを黙想してみましょう。また、安易な？贖罪論に陥ることなく、裏切られ、見捨てられ、孤独に苦しむ人間と連帯された主イエスを黙想しましょう。あるいは「この大祭司は、罪を犯されなかったが (chōris hamartias without sin)、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです (Pepeirasmenon 同じ仕方で誘惑された！) (ヘブライ 4:15)。わたしたちの弱さに与るために！私たちが味わう苦難は実は神の隠された慈しみなのです。苦しみは信仰者をますます神に結びつけます。
4. 「わたしにふさわしいときに、…助け出してください」(16 節)「わたしのすべてのときはあなたのみ手のうちにあります」(bəyādəkā ‘ittōtāy in your hand my times)の方が良い翻訳です。In His Time 新生讚美歌 623 を賛美しましょう。聖書朗読と讚美歌を歌うことと祈ることを組み合わせ、何か示されたら書き留めるため、ペンを持って臨みましょう。
5. 主なる神を愛せよ 24 節は「主の慈しみに生きる人はすべて、主を愛せよ」と勧めます。(ehēbū ‘et-Yahweh kāl hāsīdāw) 英語訳は「聖徒たち」ですが、恩寵に生きる、慈しみに生きるすべての人、あるいは、主をおそれるすべての人が良いでしょう。「ヘセド」はやはり、慈しみ、恩寵です。
6. 21 節「御もとにかくまって、仮庵の中に隠し」(tastīrēm bāsēter pānekā あなたのみ顔の隠れ家にかくし、あなたの小屋に匿ってください)。人間の謀、争いから身を引き、主の恵みの中に隠していただきましょう！